

デジタルスペクトルメーター APU101G / APU101S APN101G / APN101S

コマンドマニュアル

第 3.0.0 版 2025 年 05 月

株式会社 テクノエーピー

〒312-0012 茨城県ひたちなか市馬渡 2976-15

TEL : 029-350-8011

FAX : 029-352-9013

URL : <http://www.techno-ap.com>

e-mail : info@techno-ap.com

目 次

1.	安全上の注意・免責事項.....	3
2.	概要.....	4
3.	DSP コマンド.....	5
3. 1.	概要.....	5
3. 2.	コマンドフォーマット.....	6
3. 3.	コマンドの種類.....	7
3. 4.	コマンドエリア.....	12
3. 5.	DSP コマンド説明（共通エリア）.....	13
3. 6.	DSP コマンド説明（CH 別エリア）.....	17
3. 7.	HV（高圧電源コマンド）説明.....	24
4.	その他.....	30
4. 1.	機器初期設定に失敗した場合.....	30

1. 安全上の注意・免責事項

日頃、株式会社テクノエーピー（以下「弊社」）の DSP（Digital Signal Processor、以下「本装置」）製品のご愛顧を頂き、誠にありがとうございます。ネットワークインターフェースを実装した DSP 製品は、ユーザー様のオリジナルプログラムでの計測制御が可能となっております。DSP 製品に対するプログラムを製作する前に、この「安全上の注意・免責事項」をお読みの上、内容を必ずお守りいただき、正しくご使用ください。

弊社製品のご使用によって発生した事故であっても、装置・検出器・接続機器・アプリケーションの異常、故障に対する損害、その他二次的な損害を含む全ての損害について、弊社は一切責任を負いません。

禁止事項

- ・ 人命、事故に関わる特別な品質、信頼性が要求される用途にはご使用できません。
- ・ 高温、高湿度、振動の多い場所などでのご使用はできません。
- ・ 強い衝撃や振動を与えないでください。
- ・ 分解、改造はしないでください。
- ・ 水や結露などで濡らさないでください。濡れた手での操作もおやめください。
- ・ 発熱、変形、変色、異臭などがあった場合には直ちにご使用を止めて弊社までご連絡ください。

注意事項

- ・ 本装置の使用温度範囲は室温とし、結露無いようにご使用ください。
- ・ 発煙や異常な発熱があった場合はすぐに電源を切ってください。
- ・ 本装置は高精度な精密電子機器です。静電気にはご注意ください。
- ・ 本装置は、ほこりの多い場所や高温・多湿の場所には保管しないでください。
- ・ 携帯電話やトランシーバー等、強い電波を出す機器を近づけないでください。
- ・ 電氣的ノイズの多い環境では誤作動のおそれがあります。
- ・ 本装置の仕様や本書及び関連書類の内容は、予告無しに変更する場合があります。

2. 概要

本装置は、リアルタイムデジタルシグナルプロセッシング機能(DSP)を搭載したマルチチャネルアナライザ(MCA)のため、アナログ回路による波形整形処理が不要になり、非常に高速な A/D コンバータを利用して、プリアンプからの信号を直接デジタルに変換し FPGA によるパイプラインアーキテクチャによって、リアルタイムに台形フィルタ (Trapezoidal Filter) 処理されます。これにより非常に優れたエネルギー分解能と時間分解能を提供し、高い計数率(100kcps 以上)でも抜群の安定感を持ちます。

本装置はパソコン (以下 PC) と LAN ケーブルにより接続し、付属のアプリケーション「DSP MCA」(以下本アプリ)を使用することでパラメータの設定やデータの読み出し、計測したデータの解析及び取込み等ができます。また、ユーザー様が TCP/IP や UDP 通信を用いたオリジナルプログラムを製作することで、DSP の計測制御を実行することも可能です。

本書は、本装置への計測制御に関するコマンドの取り扱いについて記載したものです。

※本書の記載内容は予告なく変更することがあります。

改訂履歴

2020 年 03 月	第 1.0.0 版	初版
2020 年 04 月	第 1.1.0 版	誤記修正
		→下記レジスタの説明(計算式)を実装した高圧モジュールの出力別に説明
		①掃引時間 (HSW)
		②出力電圧設定 (HVD)
		→バイアスシャットダウン電圧極性 (HSP) の説明の誤りを修正
2022 年 07 月	第 1.2.0 版	list モード, quick scan モードの手順について追記、誤記訂正
2023 年 02 月	第 2.0.0 版	ハードウェア改訂に伴う変更
2023 年 04 月	第 2.0.1 版	ADC gain 最大を 16834 に拡大、誤記訂正
2023 年 05 月	第 2.0.2 版	HSR 追加、誤記訂正
2024 年 02 月	第 2.1.0 版	電圧掃引を三段階まで拡張、APU101 のヒストグラムデータ末尾に付加情報を追加
2024 年 08 月	第 2.1.1 版	クイックスキャンのデータフォーマット追加。PHI コマンド追加。
2025 年 05 月	第 3.0.0 版	APU101X/ APN101X の説明を削除。

3. DSP コマンド

3. 1. 概要

弊社 DSP 製品（高圧電源内蔵 DSP 製品も含む）に対する設定及びデータの取得は、イーサネット経由 TCP/IP と UDP によって行っています。特殊なライブラリなどは使用していませんので、通信フォーマット（コマンド）に準拠すれば、ユーザー様のオリジナルのアプリケーションでも DSP を制御可能です。

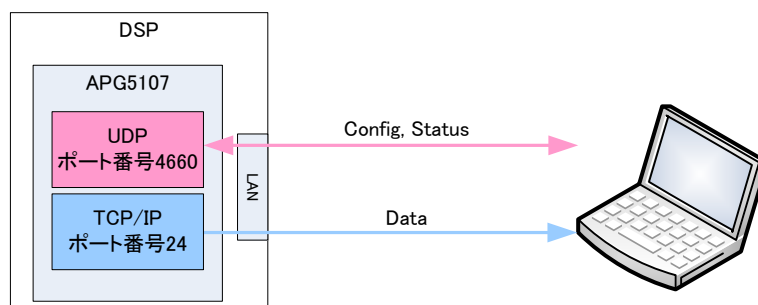
DSP には以下の通信用ボードが搭載されております。

通信用ボード	通信規格	通信プロトコル	コマンド方式
APG5107	1000Mbps	TCP/IP 及び UDP	アドレス+パラメータ

本章は、通信用ボードに APG5107 を搭載している場合のコマンドについて記載するものです。

APG5107 は、高速データ通信を実現するために SiTCP を採用しています。SiTCP とは、大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構（<http://www.kek.jp/ja/>、以下 KEK）にて開発された機器をイーサネットに接続するための技術で、現在は KEK 発ベンチャー企業である株式会社 Bee Beans Technologies（<http://www.bbtech.co.jp>、以下 BBT）へ技術移転されています。SiTCP を使用する場合は、BBT から使用許諾を受けております。SiTCP やデータの送受信の詳細につきましては、BBT 社ウェブサイトの各マニュアルを参照ください。

コマンドの種類は、「Config（設定）と Status（ステータス）」、「Data（データ）」の2つに大別されます。SiTCP ではこの2種類のコマンドを競合せずに送受信できるよう、TCP/IP と UDP の2つのプロトコルが動作しており、それぞれに装置側の通信ポートを定義しています。Config と Status は UDP でポート番号はデフォルトで 4660 番です。Data は TCP/IP でポート番号はデフォルトで 24 番です。



以下にコマンドのフォーマットや種類について記載します。

3. 2. コマンドフォーマット

コマンドのフォーマットは、Config 書込みの場合と Status 読出しの場合と Data 読出しの場合があります。DSP 製品には数多くの設定が用意されており、その一つ一つにアドレスが割り当たっています。ある設定を変更する場合は、その設定に割り当てられたアドレスに対して変更する値を上書きする、ことになります。

「ヘッダー部」は、SiTCP の仕様に準拠した Ver/Type/CMD/FLAG/ID 及び Data Length の 6 項目が含まれます。図 1 にコマンドフォーマットの概要を示します。

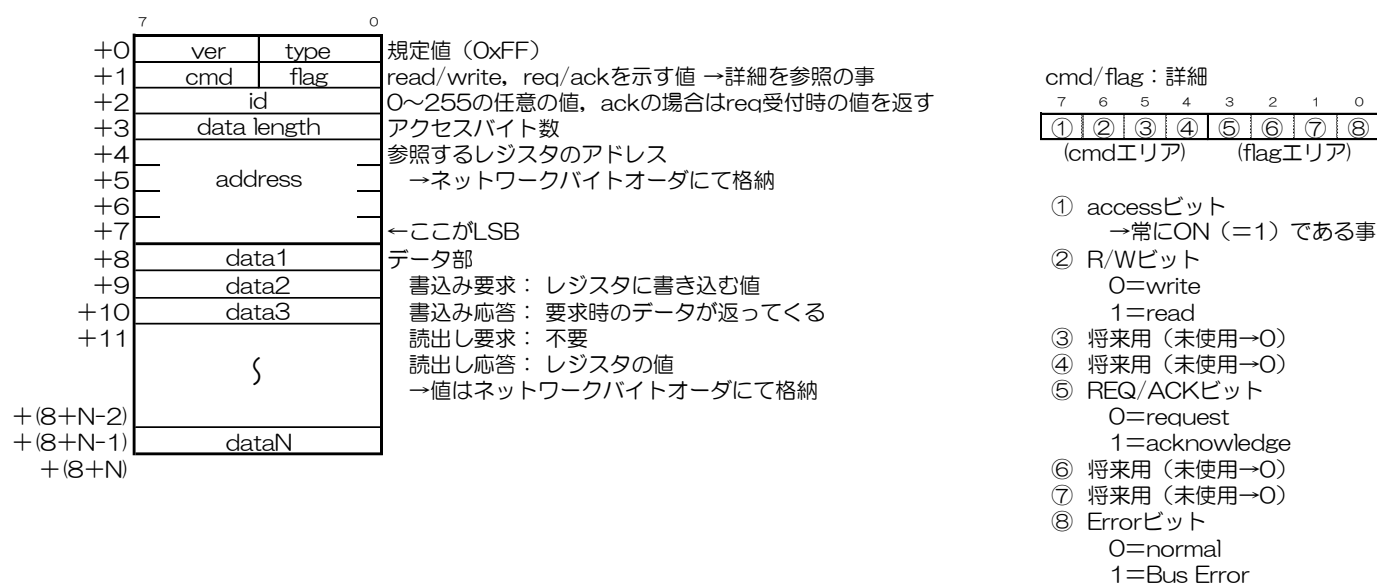


図 1 コマンド (UDP) フォーマットの概要

また、Data 読出しは、DSP からのスペクトル等の計測データ受信が該当します。これは、上記のレジスタのアクセスと組み合わせて、計測データ自体は TCP/IP によって取り込みます。詳細については、別項にて説明します。

3. 3. コマンドの種類

(1) 書き込みコマンド

図 2 にレジスタアドレス：0xB4000010 に2バイトのデータを書込む例を示します。

【UDP, ポート番号 4660】

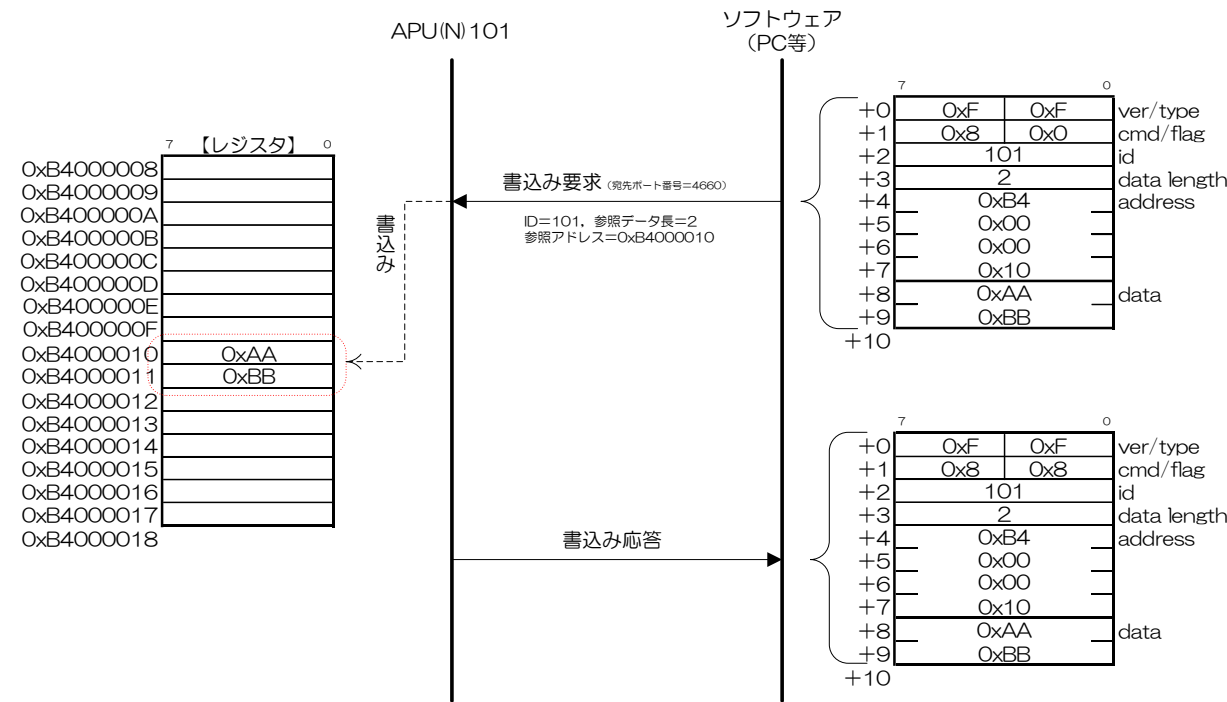


図 2 書き込みコマンドの場合

設定内容と応答内容と比較することで、書き込みコマンドが正常に実行できたかどうかを確認できます。

(2) 読出しコマンド

図 3 にレジスタアドレス：0xB4000010 から2バイトのデータを読出す例を示します。

【UDP, ポート番号 4660】

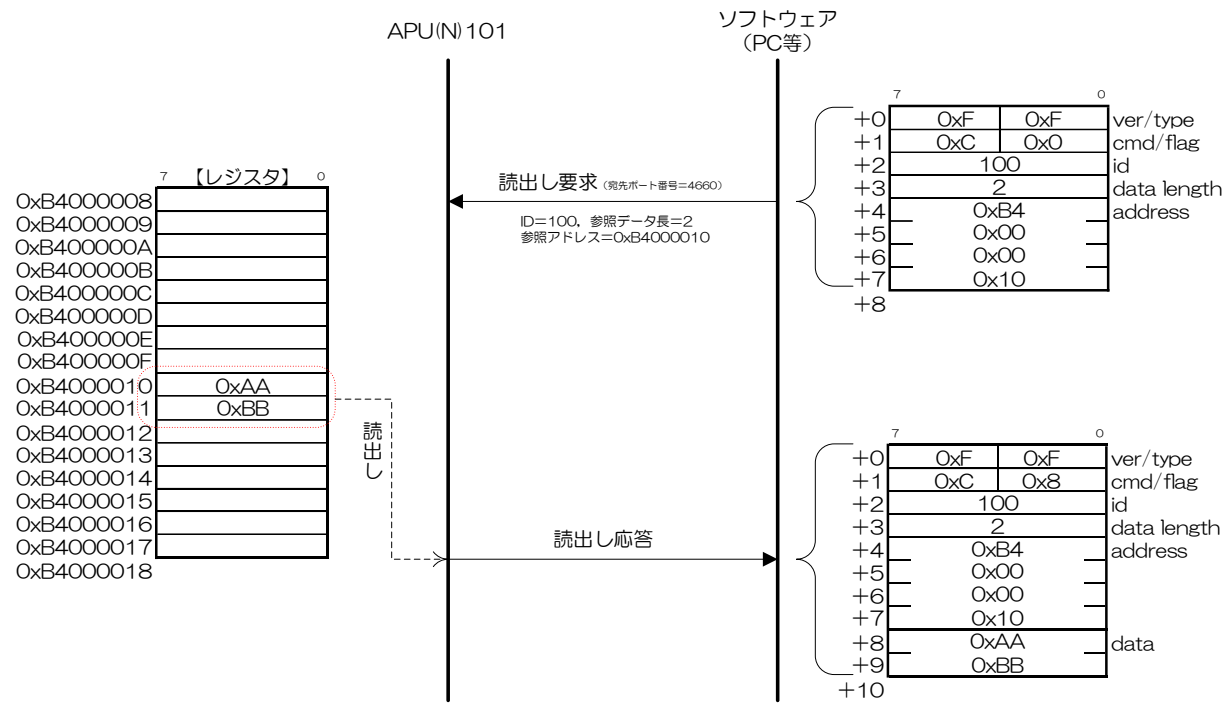


図 3 読出しコマンドの場合

(3) ヒストグラム Data コマンド

ヒストグラム Data コマンドにてヒストグラムデータ（65560Byte，16384 チャンネル＋付加情報）を PC へ読み込めます。

まず UDP にて PC からチャンネル番号を含むヒストグラムデータを要求し、これに対しぐさま TCP/IP 経由で DSP からデータ部の応答がありますので、PC 側は 65560Byte 受信します。UDP で要求し、TCP/IP で読み込むことになります。

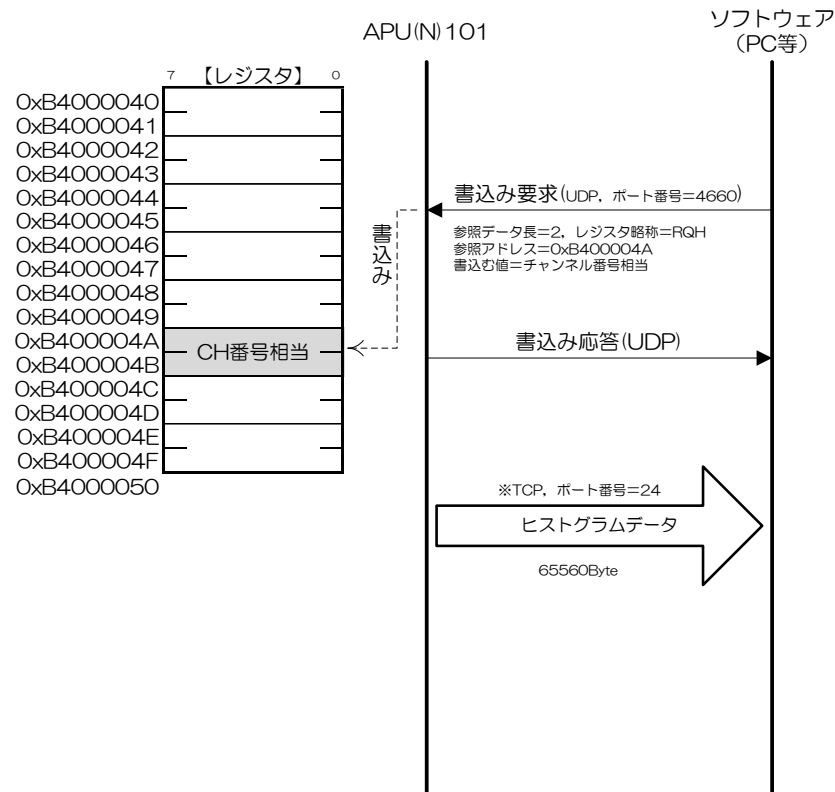


図 4 ヒストグラム Data の転送の流れ

【UDP PCからの要求】

RQHレジスタ (0xB400004A) に取り込みたいCHの番号を書込みます。

- RQHレジスタの詳細は「3. 5. 7.」項 (P. 14) を参照してください。
- 書き込み要求コマンドの詳細については「3. 3. (1)」項 (P.7) を参照してください。

【UDP DSPからの応答】

DSPはRQHレジスタへの書き込みに対する応答を返します。

【TCP/IP ヒストグラムデータ受信】

RQHレジスタへの書き込みに対する応答が返ってきた後、DSPは直ちにTCP/IP (ポート番号=24) にてヒストグラムデータを転送します。

仮に使用bin数が2048であってもDSPは16384bin分のデータ、および24Byteの付加情報を転送します。先頭から2048bin分切り出してご使用ください。

図5にヒストグラムデータの構成(bin#割当)を示します。

	31	0
+0	bin# : 0	
+4	bin# : 1	
+8	bin# : 2	
+12	}	
+65524		
+65528	bin# : 16382	
+65532	bin# : 16383	
+65536	Real Time(上位 32bit)	
+65540	Real Time(下位 32bit)	
+65544	Live Time(上位 32bit)	
+65548	Live Time(下位 32bit)	
+65552	未使用	
+65556	MMD(現在の計測時間モード)	
+65560		

図5 ヒストグラムデータの構成とbin#の割当て

(4) list データ読み出し

【TCP/IP DSP データ送信】

UDP にて list モードをセットし計測を開始すると、通信用ポートに list データが溜まり始めます。

【TCP/IP PC データ受信】

TCP にて任意の Byte 分だけ、読み込みを行うことができます。

list データのサイズは 1 イベントあたり 10Byte のため、その整数倍の単位で読み込を行ってください。

3. 4. コマンドエリア

コマンドのアドレスの割り当ては、以下のように大別されます。

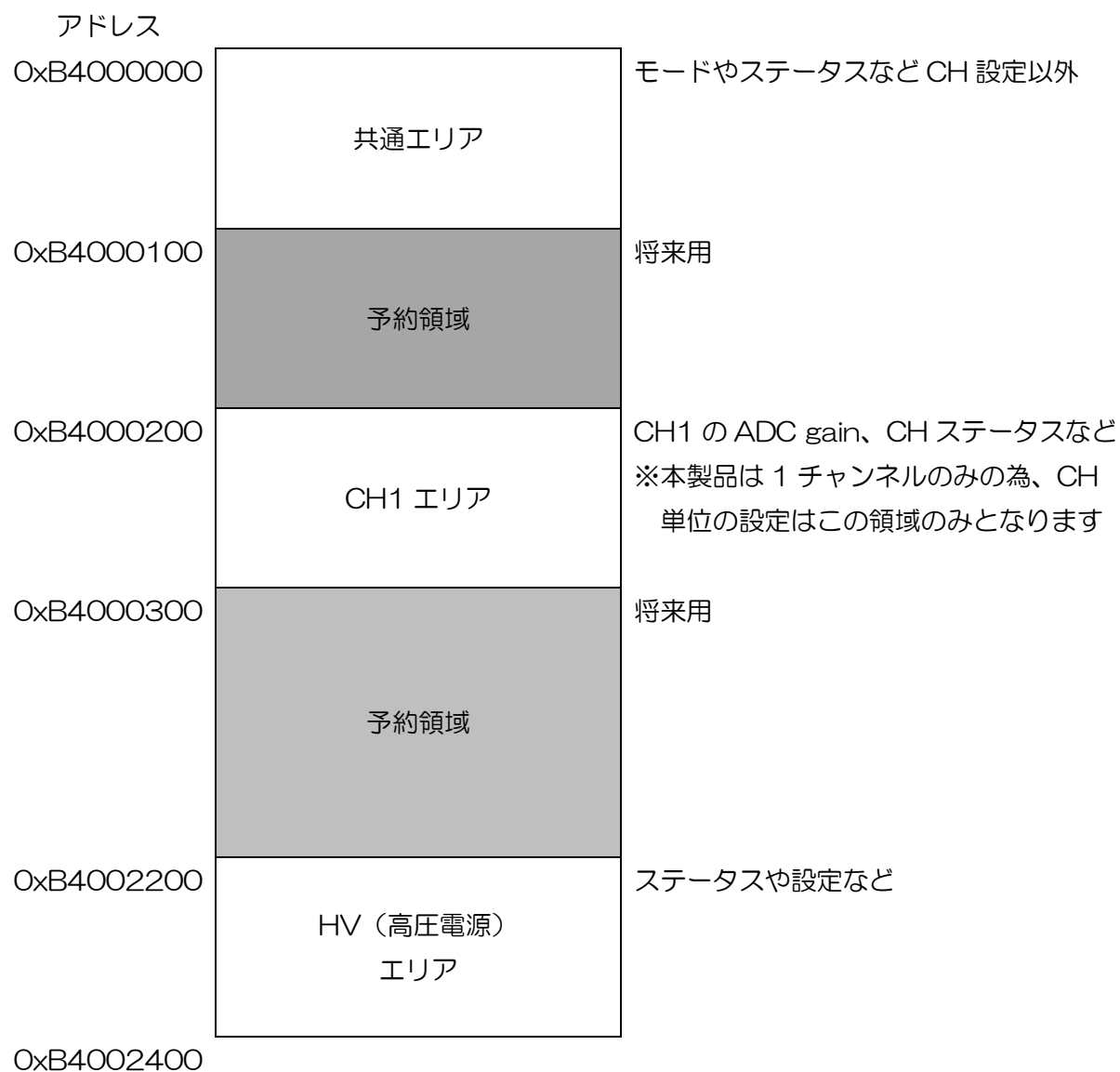


図 6 コマンドエリアマップ

3. 5. DSP コマンド説明（共通エリア）

モードなど各 CH 共通の設定を行うレジスタです。

以降に於ける各レジスタの説明順はレジスタのアドレス順としています。

1. MOD：計測モード

説明 : モードを選択設定
 アドレス : 0xB4000010, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 0、1 または 7
 0 : histogram モード
 1 : list モード
 7 : wave モード(オプション)

2. MMD：計測時間モード

説明 : 計測時間 (MTM) を判断する際の時間のモード
 アドレス : 0xB4000012, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 0 または 1
 0 : リアルタイムモード
 1 : ライブタイムモード

3. AQS：計測開始／停止

説明 : 計測開始・停止の選択設定、状態読出し
 アドレス : 0xB4000014, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 0 または 1
 0 : 計測停止
 1 : 計測開始

4. MTM：計測時間

説明 : 計測時間
 アドレス : 0xB4000016, 48bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 0 から $2^{48}-1$
 10ns/bit。最大設定時間は $(2^{48}-1) * 10\text{ns}$ より、約 32 日となります。

5. RLT：リアルタイム

説明 : リアルタイム (10ns/カウント)
 アドレス : 0xB400001C, 48bit
 属性 : Read-Only
 範囲 : 0 から $2^{48}-1$, 10ns/bit
 計測開始からの経過時間を示します。最大時間は $(2^{48}-1) * 10\text{ns}$ より、約 32 日となります。

6. CLR：クリア

説明 : ヒストグラムデータをクリアします
 アドレス : 0xB4000040, 16bit
 属性 : Write-Only
 設定方法 : クリアする場合は「0→1→0」の順で書込んでください

7. RQH：ヒストグラムデータ要求 CH

説明 : CH 指定によるヒストグラムデータ要求。UDP で読み込むヒストグラムの CH 番号を書込む。デバイス側は CH 番号の書き込みをトリガーに TCP/IP によりヒストグラムデータを転送する。
 アドレス : 0xB400004A, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 0 (CH1) 固定
 備考 : 指定 CH のヒストグラムデータを読み込む手順は「3. 3 (3)」項 (P.9) を参照してください。

8. CLS：クロック選択

説明 : 動作クロックを内部または外部から選択
 アドレス : 0xB400004E, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 0 または 1
 0 : 内部クロック
 1 : 外部クロック

9. SCS：サンプリングレート

説明 : wave 波形のサンプリングレート
 アドレス : 0xB4000060, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 0から8
 0=10 ナノ秒 (100MHz)
 1=20 ナノ秒 (50MHz)
 2=40 ナノ秒 (25MHz)
 3=80 ナノ秒 (12.5MHz)
 4=160 ナノ秒 (6.25MHz)
 5=320 ナノ秒 (3.125MHz)
 6=640 ナノ秒 (1.5625MHz)
 7=1280 ナノ秒 (781.25kHz)
 8=2560 ナノ秒 (390.625kHz)

10. FRN：フリーラン

説明 : トリガー機能の有無を設定。無効にするとトリガーされた波形、有効にするとトリガーフリーの波形となります。
 アドレス : 0xB4000066, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 0 または 1
 0：トリガー有効
 1：トリガー無効

11. TGE：トリガーエッジ

説明 : トリガーするエッジを設定
 アドレス : 0xB4000068, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 0 または 1
 0：立ち下がり
 1：立ち上がり

12. TSO：トリガーソース (オプション)

説明 : トリガーの対象とする SIG を設定
 アドレス : 0xB400006A, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 0 から 3 (SIG1 から SIG4)

1 3. TPO：トリガーポジション

説明 : wave モード使用時、トリガーした地点へのオフセット点数 (M: 0～2000nec) を設定

アドレス : 0xB400006C, 16bit

属性 : Read/Write

範囲 : 0～1023, 下記の換算式で算出した値 (N) を設定します。

計算式 : $N = (M \div 10) \div 2^{\text{SCS}}$
(SCS はサンプリングレートレジスタに設定した値)
「9. SCS：サンプリングレート」項 (P.15) を参照をしてください。

1 4. TLV：トリガーレベル

説明 : トリガー波形取得用の閾値

アドレス : 0xB400006E, 16bit

属性 : Read/Write

範囲 : - 8192～8191 の値をそのまま設定します

1 5. DAC：DAC モニタ

説明 : DSP の前面パネル Monitor Out からの出力信号選択設定。以下の 4 種類の波形を選択可能です。

「pre amp」 : プリアンプ入力信号

「fast」 : FAST 系フィルタ信号

「slow」 : SLOW 系フィルタ信号

アドレス : 0xB400007A, 16bit

属性 : Read/Write

範囲 : 0 から 31

表 1 CH と信号種別の割当て

#	値	CH	信号種別
1	0	1	プリアンプ入力信号
2	1	1	FAST 系フィルタ信号
3	2	1	SLOW 系フィルタ信号
4	3～31	—	将来用 (未使用)

3. 6. DSP コマンド説明 (CH 別エリア)

CH 単位の設定を行うレジスタです。

以降に於ける各レジスタの説明順はレジスタのアドレス順としています。

1. ACG : アナログコースゲイン

説明 : アナログアンプのコースゲイン

アドレス : 0xB4000200, 16bit

属性 : Read/Write

範囲 : 0 から 3

0 : 1 倍

1 : 2 倍

2 : 5 倍

3 : 10 倍

備考 : 製品によって各値に割り当てられるゲインが異なる場合があります

2. ADG : ADC ゲイン

説明 : ADC ゲイン (チャンネル数、ビンサイズ)

アドレス : 0xB4000202, 16bit

属性 : Read/Write

範囲 : 0 から 6

0 : 16384

1 : 8192

2 : 4096

3 : 2048

4 : 1024

5 : 512

6 : 256

3. FFD : FAST 系微分定数

説明 : FAST 系微分定数

アドレス : 0xB4000204, 16bit

属性 : Read/Write

範囲 : 0 から 4

0 : Ext (微分キャンセル)

1 : 20

2 : 50

3 : 100

4 : 200

4. FFI：FAST 系積分定数

説明 : FAST 系積分定数
 アドレス : 0xB4000206, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 0 から 4
 0 : Ext (積分キャンセル)
 1 : 20
 2 : 50
 3 : 100
 4 : 200

5. SFR：SLOW 系ライズタイム

説明 : SLOW 系ライズタイム
 アドレス : 0xB4000208, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 10 から 2000
 備考 : 10ns/digit。6000ns に設定する場合は 10 で割って 600 と設定

6. SFP：SLOW 系ピーキングタイム

説明 : SLOW 系ピーキングタイム
 アドレス : 0xB400020A, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 15 から 2200
 備考 : 10ns/digit。ピーキングタイムは SLOW 系ライズタイムとフラットトップタイムの和。
 フラットトップタイムとして設定する場合は、ライズタイムを加算してピーキングタイムとして設定。フラットトップタイムのみ設定できるコマンドはありません。
 例： SLOW 系ライズタイムが 6000ns、SLOW 系フラットトップタイムを 600ns と設定する場合、600(digit)と 60(digit)を加算して 660 と設定します。

7. FPZ：FAST 系ポールゼロ

説明 : FAST 系フィルタのポールゼロキャンセル定数
 アドレス : 0xB400020C, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 0 から 16383

8. SPZ : SLOW 系ポールゼロ

説明 : SLOW 系フィルタのポールゼロキャンセル定数
 アドレス : 0xB400020E, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 0 から 16383

9. FTH : FAST 系スレッシュホールド

説明 : FAST 系トリガータイミングの閾値
 アドレス : 0xB4000210, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 0 から 16383

10. LLD : エネルギーLLD

説明 : エネルギーLLD(Lower Level Discriminator)。この設定値未満の波高値はヒストグラムに加算しません。SLOW 系スレッシュホールド以上に設定。
 アドレス : 0xB4000212, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 0 から 16383

11. ULD : エネルギーULD

説明 : エネルギーULD(Upper Level Discriminator)。この設定値より大きい波高値はヒストグラムに加算しません。SLOW 系スレッシュホールドおよびLLD より大きい値を設定。
 アドレス : 0xB4000214, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 0 から 16383

12. STH : SLOW 系スレッシュホールド

説明 : SLOW 系スレッシュホールドの設定。LLD 以下に設定します。
 アドレス : 0xB4000216, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 0 から 16383

1 3. PUR：パイルアップリジェクト

説明 : パイルアップリジェクト機能の使用有無
アドレス : 0xB4000218, 16bit
属性 : Read/Write
範囲 : 0 または 1
0 : OFF
1 : ON

1 4. POL：プリアンプ出力信号の極性

説明 : DSP に入力するプリアンプ出力信号の極性
アドレス : 0xB400021A, 16bit
属性 : Read/Write
範囲 : 0 または 1
0 : ポジティブ（正極性）
1 : ネガティブ（負極性）

1 5. ICT：入力トータルカウント

説明 : FAST 系ディスクリの入力トータルカウント数
アドレス : 0xB400021C, 32bit
属性 : Read-Only

1 6. TCT：スループットトータルカウント

説明 : SLOW 系フィルタで信号処理したスループットトータルカウント数
アドレス : 0xB4000220, 32bit
属性 : Read-Only

1 7. ICR：入力カウントレート

説明 : 1 秒間の FAST 系ディスクリのインプットカウント数
アドレス : 0xB400022C, 32bit
属性 : Read-Only

1 8. TCR：スループットカウントレート

説明 : 1 秒間に信号処理したカウント数
アドレス : 0xB4000230, 32bit
属性 : Read-Only

19. PCR：パイルアップカウントレート

説明 : 1 秒間にパイルアップしたカウント数
 アドレス : 0xB4000234, 16bit
 属性 : Read-Only

20. FLR：フィルターリセット

説明 : フィルター回路のリセット
 アドレス : 0xB4000238, 16bit
 属性 : Write-Only
 設定方法 : リセットする場合は「0→1→0」の順で書込んでください。
 備考 : 各種の CH 設定を一通り済ませた後、計測開始前に一度発行します。

21. DCG：デジタルコースゲイン

説明 : デジタルコースゲイン。SLOW 系フィルタの粗ゲインレンジ調整
 アドレス : 0xB400023A, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 0 から 7
 0 : 1 倍
 1 : 2 倍
 2 : 4 倍
 3 : 8 倍
 4 : 16 倍
 5 : 32 倍
 6 : 64 倍
 7 : 128 倍

22. DFG：デジタルファインゲイン

説明 : デジタルファインゲイン。SLOW 系フィルタのファインゲインレンジ調整
 アドレス : 0xB400023C, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 2729 から 8191
 2729 : 0.333 倍
 8191 : 1 倍
 備考 : 変換式 $(X \times 8193 - 2)$ を四捨五入して digit に変換します。
 0.333 の場合は、 $0.333 \times 8193 - 2$ で 2729、1 の場合は $1 \times 8193 - 2$ で 8191 となります。

23. IHW：インヒビット信号幅

説明 : インヒビット信号のパルス幅拡張。検出器からのインヒビット信号を受信した際に、その時の事象を無効とする期間時間。

アドレス : 0xB4000244, 16bit

属性 : Read/Write

範囲 : 0 から 16383

備考 : 10ns/digit。10 μ s に設定する場合は 1000 と設定します。

24. CLT：CH ライブタイム

説明 : CH ライブタイム (10ns/カウント)

アドレス : 0xB4000246, 48bit

属性 : Read-Only

25. CDT：CH デッドタイム

説明 : CH デッドタイム (10ns/カウント)

アドレス : 0xB400024C, 48bit

属性 : Read-Only

26. DIF：カップリング

説明 :シェイピングタイム (時定数)

アドレス : 0xB4000254, 16bit

属性 : Read/Write

範囲 : 0、2 または 3
0 : RF
2 : DC
3 : TR

27. PZD：アナログポールゼロ

説明 : アナログポールゼロ調整

アドレス : 0xB4000256, 16bit

属性 : Read/Write

範囲 : 0 から 255

28. FGD：アナログファインゲイン

説明 : アナログファインゲインの調整
アドレス : 0xB4000258, 16bit
属性 : Read/Write
範囲 : 85 から 255
備考 : 85 は×0.5、255 は×1.5

29. BTS：フィルタの演算ビット選択

説明 : SLOW 系フィルタの演算ビット処理に関する設定
アドレス : 0xB400025A, 16bit
属性 : Read/Write
範囲 : 0 または 1
0 : Ge 半導体検出器等の場合
→主に抵抗フィードバック型プリアンプ用
1 : SDD (Si Drift Detector) 等の場合
→トランジスタリセット型プリアンプ用

30. BRS：ベースライン選択

説明 : 高計数時ベースライン安定化自動設定
アドレス : 0xB400025C, 16bit
属性 : Read/Write
範囲 : 0 または 1
0 : 自動
1 : 高計数時安定化

3. 7. HV（高圧電源コマンド）説明

高圧電源モジュールに関するレジスタです。

1. HST：ステータス
- 説明

:

高圧電源の出力 ON、ペルチェ電源 ON、極性、Emergency（緊急停止）の状態
- アドレス

:

0xB4002200, 16bit
- 属性

:

Read-Only
- 内容

:

ビット単位で各種情報が割り当たっています。各ビットの割当は以下の通り。

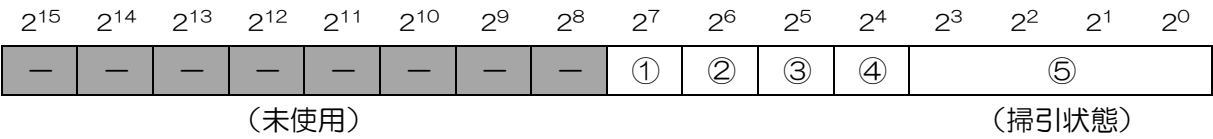


図 7 高圧電源ステータス（HST）レジスタの構成

- ①緊急停止：
- 0＝正常稼働

1＝緊急停止中
- ②バイアスシャットダウン：
- 0＝正常稼働中

1＝バイアスシャットダウン中
- ③高圧電源の極性：
- 0＝負極性（－）

1＝正極性（＋）
- ④高圧出力状態：
- 0＝出力 OFF

1＝出力 ON
- ⑤掃引状態：
- 0＝掃引 OFF

2＝掃引中

4＝掃引完了

2. HVM：出力電圧モニタ

説明 : 高圧電源の出力電圧値 (N)。
 アドレス : 0xB4002202, 16bit
 属性 : Read-Only
 内容 : 下記に電圧値 (N) を電圧 (V) に換算する計算式を示します。
 極性はステータス (HST) レジスタの極性ビットから判断します。
 計算式 : $\text{電圧 (V)} = N \times (4000 \div 2047)$

3. HIM：出力電流モニタ

説明 : 高圧電源の出力電流値 (N)
 アドレス : 0xB4002204, 16bit
 属性 : Read-Only
 内容 : このレジスタが示す電流値の単位はマイクロアンペア (uA) です。下記に電流値 (N) から電流 (uA) に換算する計算式を示します。
 計算式 : $\text{電流 (uA)} = N \times (1000 \div 2047)$

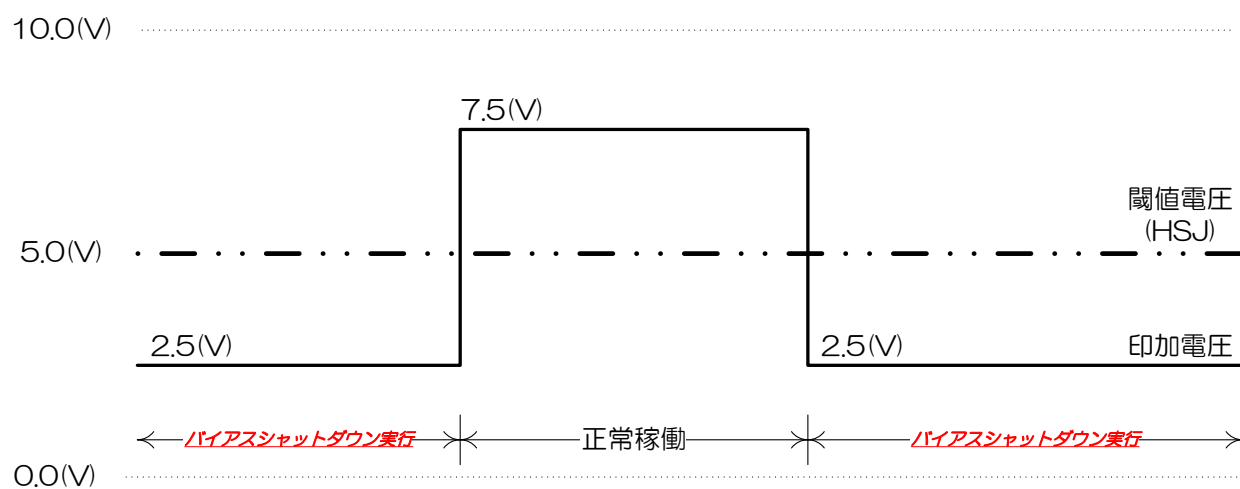
4. HSM：バイアスシャットダウン電圧モニタ

説明 : HV-SHTD 端子に入力されている信号のモニタ電圧値 (N)
 アドレス : 0xB4002206, 16bit
 属性 : Read-Only
 内容 : 下記の計算式で電圧値 (N) を電圧 (V) に換算した上で設定します。
 計算式 : $\text{電圧 (V)} = (N \times (48 \div 4096)) - 24$

5. HSP：バイアスシャットダウン判定極性

- 説明 : バイアスシャットダウンと判定する極性
 アドレス : 0xB4002208, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 0=negative, 1=positive
 説明 : 以下にバイアスシャットダウン判定電圧 (HSJ) を 5.0V とした場合に於ける印加電圧、極性およびバイアスシャットダウンの実行有無の例を示します。

【極性(HSP)=NEGの場合】



【極性(HSP)=POSの場合】

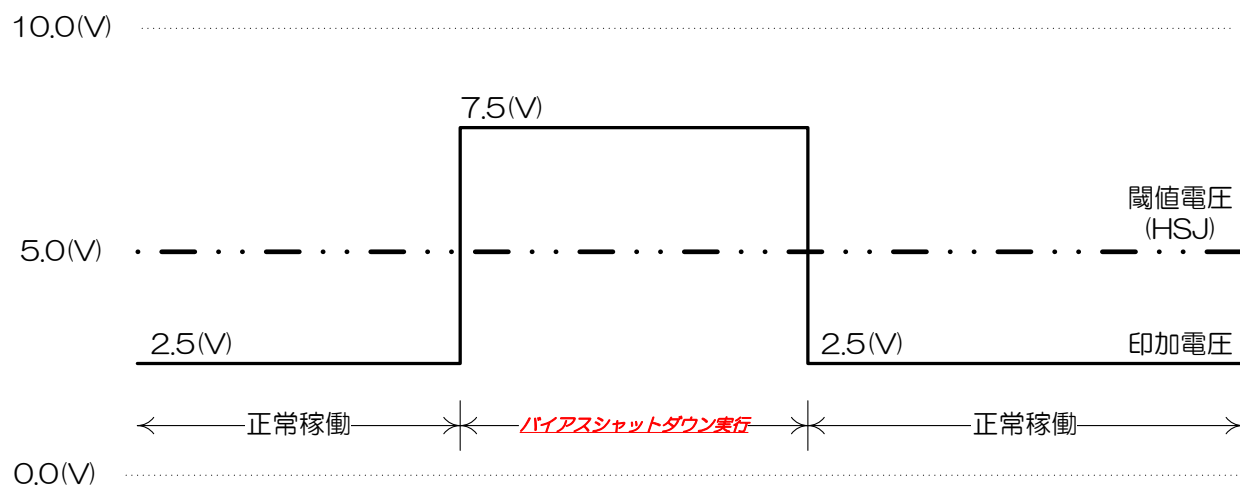


図 8 極性 (HSP) とバイアスシャットダウン実行の例

6. HSJ：バイアスシャットダウン判定

説明 : バイアスシャットダウンとする閾値電圧値 (N)
 アドレス : 0xB400220A, 16bit
 属性 : Read/Write
 内容 : 下記の計算式で算出した値を設定します。
 設定可能な範囲は-24.0～+24.0V です。
 計算式 : $N = (\text{電圧 (V)} \times (4096 \div 48)) + 2048$

7. HEN：高電圧出力可否

説明 : 高電圧出力可否
 アドレス : 0xB400220E, 16bit
 属性 : Read/Write
 範囲 : 0=OFF, 1=ON

8. HVD：出力電圧設定

説明 : 出力する電圧の設定値 (V)
 アドレス : 0xB4002232, 16bit : 掃引第一段の目標電圧
 0xB4002234, 16bit : 掃引第二段の目標電圧
 0xB4002236, 16bit : 掃引第三段の目標電圧
 属性 : Read/Write
 範囲 : 高圧モジュール部で出力する電圧値 (V) の絶対値をそのまま設定します。

極性は下記のレジスタで設定します。詳細は当該項を参照してください。

1 1. 項 (P.28), 「HPL：高圧電源極性」レジスタ

1 2. 項 (P.29), 「HPC：高圧電源高圧制御」レジスタ

9. HSW：掃引時間 (V/min)

説明 : 高圧出力の掃引時間 (V/min)
 アドレス : 0xB4002238, 16bit : 第一段の掃引時間
 0xB400223A, 16bit : 第二段の掃引時間
 0xB400223C, 16bit : 第三段の掃引時間
 属性 : Read/Write
 範囲 : 設定可能な範囲は 10～4000V/min です。
 尚、上限値は実装している高圧モジュールの最大出力により異なります。

1 0. H3E：掃引段階指定

- 説明 : 使用する掃引段階を指定
- アドレス : 0xB400223E, 16bit :
- 範囲 : 0 または 1 または 3
- 0 (b'0000) : 第一段の目標電圧と掃引時間のみ使用 (多段掃引無効)
- 1 (b'0001) : 第二段までの目標電圧と掃引時間のみ使用
- 3 (b'0011) : 第三段までの目標電圧と掃引時間のみ使用

1 1. HPL：高圧電源極性

- 説明 : 高圧電源モジュールの極性を変更するのに使用します。
- アドレス : 0xB4002360, 16bit
- 属性 : Read/Write
- 範囲 : 0=Hi-Z, 2=負極性 (－), 3=正極性 (＋)
- 設定方法 : このレジスタは HPC (高圧電源制御) レジスタと組み合わせて使用します。詳細については「1 2. HPC：高圧電源高圧制御」項を参照してください。

1 2. HPC：高圧電源高圧制御

- 説明 : 高圧電源モジュールの極性を変更するのに使用します。
- アドレス : 0xB40023FE, 16bit
- 属性 : Read/Write
- 範囲 : 0=Write Disable, 1=Write Enable
- 設定方法 : このレジスタとHPL（高圧電源極性）レジスタを使用して、高圧電源モジュールの極性を変更します。
レジスタアクセスの流れは図 9 を参照してください。
尚、極性を変更しても即時に変更は適用されませんので電源を入れ直してください。電源再投入後に変更した極性が適用になります。

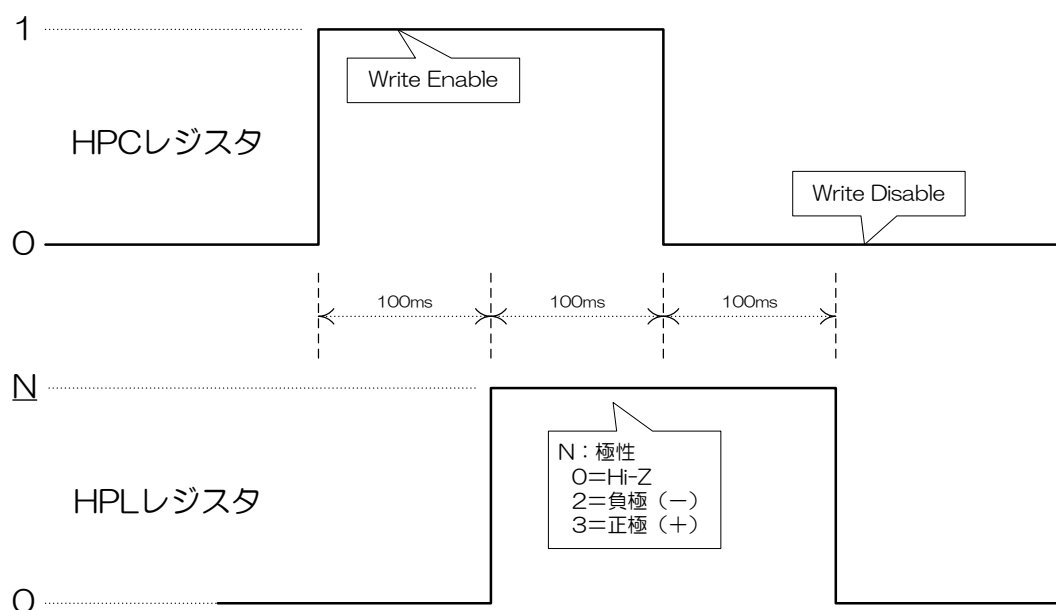


図 9 高圧電源モジュールの極性変更の流れ

1 3. HSR：バイアスシャットダウン解除後の自動復帰

- 説明 : 高圧出力中にバイアスシャットダウン解除された後の自動復帰有無
- アドレス : 0xB4002400, 16bit
- 属性 : Read/Write
- 範囲 : 0=自動復帰復帰する、1=自動復帰しない

4. その他

4. 1. 機器初期設定に失敗した場合

本アプリを起動した時に、装置との接続に失敗した内容のエラーメッセージが表示される場合があります。

主な原因は以下の通りです。

- ・ PC 側の LAN ケーブルの差し込みが不足している。
- ・ 本装置側の LAN ケーブルの差し込みが不足している。
- ・ 本装置の電源が OFF のまま、もしくは、LAN ケーブルの断線。
- ・ PC 側のネットワーク設定が DHCP になっていたり、プライベートアドレス（192.168.10.128 を除く 192.168.10.2 から 255）で設定されていない。
- ・ PC の省電力モードが機能していた。
- ・ UDP で使用するポート番号 4660 番及び TCP/IP で使用する 24 番が定義されていない。
- ・ 不明の原因。ケーブルの接続などの確認後、本アプリの再起動をお願いします。

※高圧電源が印加中であったり、必要なプリアンプ電源供給中などがありますので、この現象解決の為にいきなり本装置の電源を OFF にしないでください。